

兵庫県 南海トラフ巨大地震津波被害想定

平成26年6月

兵 庫 県

第 1 部 被害想定結果

第 1 部 目 次

1 はじめに	1-1-4
1.1 目的	1-1-4
1.2 南海トラフ巨大地震とは	1-1-5
2 被害想定的前提条件	1-2-1
2.1 地震、津波ハザード	1-2-1
2.1.1 地震ハザード	1-2-1
2.1.2 津波ハザード	1-2-5
2.2 被害想定シーンの設定	1-2-14
3 項目ごとの被害様相及び定量的な被害量	1-3-1
3.1 建物被害	1-3-1
3.1.1 揺れによる建物被害	1-3-2
3.1.2 液状化による建物被害	1-3-5
3.1.3 津波による建物被害	1-3-7
3.1.4 急傾斜地崩壊（土砂災害）による建物被害	1-3-11
3.1.5 地震火災による建物被害	1-3-12
3.1.6 津波火災による建物被害	1-3-16
3.2 屋外転倒、落下物	1-3-18
3.2.1 ブロック塀・自動販売機等の転倒	1-3-18
3.2.2 屋外落下物の発生	1-3-19
3.3 人的被害	1-3-20
3.3.1 揺れが原因の建物倒壊による人的被害	1-3-21
3.3.2 津波による人的被害	1-3-25
3.3.3 急傾斜地崩壊（土砂災害）による人的被害	1-3-29
3.3.4 火災による人的被害（焼死者数）	1-3-30
3.3.5 ブロック塀・自動販売機等の転倒、屋外落下物による人的被害	1-3-31
3.3.6 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による人的被害	1-3-35
3.3.7 交通人的被害（道路）	1-3-39
3.3.8 交通人的被害（鉄道）	1-3-40
3.3.9 震災関連死	1-3-41
3.3.10 揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）	1-3-44
3.3.11 津波被害に伴う要救助者・要搜索者	1-3-45
3.4 ライフライン被害	1-3-46
3.4.1 上水道	1-3-46
3.4.2 下水道	1-3-51
3.4.3 電力	1-3-55
3.4.4 通信	1-3-56
3.4.5 ガス	1-3-58
3.4.6 流通小売	1-3-59

3.5	交通施設被害	1-3-61
3.5.1	道路（高速道路、一般道路）	1-3-61
3.5.2	鉄道	1-3-66
3.5.3	港湾	1-3-70
3.5.4	空港	1-3-73
3.6	生活への影響	1-3-75
3.6.1	避難者	1-3-75
3.6.2	災害時要援護者	1-3-76
3.6.3	帰宅困難者	1-3-78
3.6.4	孤立集落	1-3-81
3.6.5	ゼロメートル地帯の長期湛水	1-3-84
3.6.6	エレベータ内閉じ込め	1-3-86
3.6.7	物資	1-3-87
3.6.8	医療機能	1-3-94
3.6.9	保健衛生、防疫、遺体処理等	1-3-96
3.6.10	避難所	1-3-100
3.6.11	病院・警察・消防・福祉施設	1-3-103
3.6.12	応急仮設住宅	1-3-115
3.7	災害廃棄物等	1-3-116
3.7.1	災害廃棄物等	1-3-116
3.8	その他の被害	1-3-122
3.8.1	長周期地震動	1-3-122
3.8.2	危険物・コンビナート施設	1-3-124
3.8.3	地下空間（地下鉄・地下街）	1-3-129
3.8.4	文化財	1-3-131
3.8.5	ため池、堰堤	1-3-134
3.8.6	漁船・船舶、水産関連施設	1-3-138
3.8.7	複合災害	1-3-142
3.9	被害額	1-3-143
3.9.1	資産等の被害	1-3-144
3.9.2	生産・サービス低下による影響	1-3-144
3.9.3	交通寸断による影響	1-3-145
4	被害想定 の 総括	1-4-1
4.1	被害全体の概要	1-4-1
4.1.1	国被害想定および阪神・淡路大震災との比較	1-4-1
4.1.2	時系列の被害様相	1-4-2
4.2	市町ごとの被害の概略	1-4-7
4.3	防災・減災対策効果の試算	1-4-113
4.3.1	津波からの早期避難率の向上	1-4-113
4.3.2	防潮堤等強化による津波浸水面積の減少	1-4-115
4.3.3	建物耐震性の強化	1-4-119

4.3.4 家具等の転倒・落下防止	1-4-121
4.3.5 初期消火率の向上	1-4-122
4.3.6 複合対策の効果	1-4-123
4.3.7 対策による経済被害額の減少	1-4-129